



# HARD WOOD

**まず基本を抑えること。  
木材のグレードとクオリティ  
はその証明になる。**

ギターの木部は普通、3~4種類のハードウッドから成っている。素材としてはメイプル、マホガニー、ローズウッド、エボニー、スプルースなどがギター用として適材とされているが、それぞれ原産地によってかなり特性が変化する。例えばメイプルなどは国産の九州楓とカナダ付近のロックメイプルとは想像以上の違いがあるのだ。前者は温暖な気候の地域で育ったため繊維密度の低い柔らかな材で、後者はギター材にふさわしい硬質な音響特性の秀れたものといえる。メイプルはよくネックやボディトップなどに使用されるが、九州楓を使用したネックはCup, Bow, Crookなどのそり、やせが必ずといってよいほど発生する。特に内部割れなどの目に見えないCollapse(欠損)は楽器そのものの寿命を縮めてしまう。私達のファクトリーにも時折そんな致命的な症状を持ったギターが持ち込まれることがある。私達プロの目からは、これは明らかに作る側の良心の問題だと嘆きたくなるものも多い。外観だけは重箱の隅をつつくようにこまごまとコピーされているのだが基本を踏みはずし数量を追い求める結果で、このような悲劇はやはりメーカーの責任だと感じないではいられない。まず基本を抑えること。グレコがいつも口ぐせのように繰り返して確認し続けているのがこのことなのだ。我々はまず世界中から木材を集める。しかもこの木材はこの地域にしかあり得ないという指定のもとに大量に集積させる。メイプルならカナダ、エボニーならインド、マホガニーならモザンビークというように莫大な量の生材をコレクトする。そして沢山の丸太材の中から木口割れ、表面硬化のないものを選ぶのだが、その選択基準は非常に厳しいものだ。素人目には何故かと思うような丸太材が次々と廃棄されていく。木理、肌目、樹形などを基準に際限なく慎重な作業が繰り返されるのだ。基準通過の丸太材は製材され、芯材部、辺材部、桁目、板目に分類される。ここで更に今迄以上の過酷な生材チェックがなされる。この時点ですでに当初の9割以上はチェック落ちされてしまう。しかもこの間の作業はまだほんの入口にしかすぎない。まだ我々のギターボディに完全にふさわしいとは認められてはいないのだ。木材のグレードとは現状の程度をいうのではなく、今後何十年も経過した時点での品質のことをいうのだ。私達はこの自信を裏付けるグレードのものしか認めようとは思わないのだ。